

'01 大阪大学

解説

- (1) 点 $(2n, 0)$ から点 $(2n+2, 0)$ へは, 点 $(2n+1, 1)$ を通る経路ただ1つで,
点 $(2n, 2)$ から点 $(2n+2, 0)$ へも, 点 $(2n+1, 1)$ を通る経路ただ1つであるから

$$a_{n+1} = a_n + b_n$$

点 $(2n, 0)$ から点 $(2n+2, 2)$ へは, 点 $(2n+1, 1)$ を通る経路ただ1つで, 点 $(2n, 2)$ から点 $(2n+2, 2)$ へは, 点 $(2n+1, 1)$ を通る経路と点 $(2n+1, 3)$ を通る経路の2つであるから

$$b_{n+1} = a_n + 2b_n$$

- (2) $a_{n+1} + tb_{n+1} = (t+1)a_n + (2t+1)b_n$ である.

$t = -1$ と仮定すると, $a_{n+1} - b_{n+1} = -b_n$ で,

$a_1 = b_1 = 1, a_2 = 2, b_2 = 3$ から, $a_1 - b_1 = 0, a_2 - b_2 = -1$ となり, $\{a_n - b_n\}$ は等比数列とならない. ゆえに, $t+1 \neq 0$ となる.

$$\text{このとき } a_{n+1} + tb_{n+1} = (t+1) \left\{ a_n + \frac{2t+1}{t+1} b_n \right\}$$

よって, $\{a_n + tb_n\}$ が等比数列となるのは $t = \frac{2t+1}{t+1}$ のときである.

$$\text{したがって, } t^2 - t - 1 = 0 \text{ から } t = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$$

- (3) (2) より, $t = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$ で, 等比数列 $\{a_n + tb_n\}$ の初項と公比はともに

$$1 + t = \frac{3 \pm \sqrt{5}}{2} \text{ であるから}$$

$$a_n + \frac{1}{2}(1 + \sqrt{5})b_n = \frac{1}{2^n}(3 + \sqrt{5})^n, \quad a_n + \frac{1}{2}(1 - \sqrt{5})b_n = \frac{1}{2^n}(3 - \sqrt{5})^n \text{ となる.}$$

$$\text{ゆえに } a_n = -\frac{1}{2^{n+1}\sqrt{5}} \{(3 + \sqrt{5})^n(1 - \sqrt{5}) - (3 - \sqrt{5})^n(1 + \sqrt{5})\},$$

$$b_n = \frac{1}{2^n\sqrt{5}} \{(3 + \sqrt{5})^n - (3 - \sqrt{5})^n\}$$

'01 大阪大学

$$\begin{aligned}
 (4) \quad (3) \text{ から } \frac{a_n}{b_n} &= -\frac{1}{2} \cdot \frac{(3+\sqrt{5})^n(1-\sqrt{5}) - (3-\sqrt{5})^n(1+\sqrt{5})}{(3+\sqrt{5})^n - (3-\sqrt{5})^n} \\
 &= -\frac{1}{2} \cdot \frac{1-\sqrt{5} - \left(\frac{3-\sqrt{5}}{3+\sqrt{5}}\right)^n(1+\sqrt{5})}{1 - \left(\frac{3-\sqrt{5}}{3+\sqrt{5}}\right)^n}
 \end{aligned}$$

ここで $0 < \frac{3-\sqrt{5}}{3+\sqrt{5}} < 1$

ゆえに $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{b_n} = -\frac{1-\sqrt{5}}{2} = \frac{-1+\sqrt{5}}{2}$

講評

昔は、確率と漸化式という形でかなり良く出題されていたタイプの問題。本問は確率ではないが、本質的には同じタイプ。漸化式の出し方をきちんと押さえておきたい。漸化式さえ作ってしまえば、あとは誘導にのっていけばそれほど難しくはない。